

ベルツ博士は、明治9年(1876)27才の時、東京医学校教師としてドイツから迎えられ以後29年間、わが国の医学教育のためにつくした。夫人は御油の旧家戸田氏の出で、花といい内助の功が大きかった。

明治38年(1905)、博士は夫人とともに故国に帰り、大正2年(1913)、64才で他界した。

その後、夫人は単身日本に帰り東京に住んだが、ありし日の博士への思慕とその冥福を祈るため、昭和5年(1930)、先祖の菩提寺であるこの寺に供養塔を建てた。花夫人は昭和12年(1937)、東京大学病院で病没され享年74才であった。

傍に第二次世界大戦で戦死した3人の孫や家族の墓碑があり秋桜子の句碑が手向けられている。

「菊にほふ国に大医の名をとどむ」

4. 伽藍と庭園

朱塗の山門をくぐり正面に入母屋造りの本堂があり、向って左手に衆寮が並ぶ。右手には庫裡、玄関、書院、方丈、円通閣、鐘楼があり、衆僧を集めて修行させた昔の七堂伽藍の規模をのこしている。

本堂裏には大寶山の霊峰を背景にした廻遊式の大庭園がある。苔にかこまれた池は峰の翠をうつして静かな趣をたたえて庭園を登りつめたところに鴻村の句碑がある。

「月にむささび飛ばば すだまも連れ跳ばむ」



(西明寺庭園)

年中行事

1月1日	元旦大祈祷会	9月23日	彼岸中日法要
1月26日	高祖降誕会		檀信徒祠堂法要
2月15日	釋尊涅槃会	9月29日	両祖忌
3月21日	彼岸中日法要	10月23日	開山忌
	檀信徒祠堂法要	11月21日	太祖降誕会
4月8日	釋尊降誕会	12月8日	釋尊成道会
4月29日	愛染講大祭	毎月29日	愛染講月例祭
8月15日	山門大施食会		新亡精霊総回向
	檀信徒祠堂法要		

御案内

- JR豊橋駅で乗換名鉄国府駅東口下車徒歩10分
- 東名高速音羽蒲郡インターより国道1号線を豊橋方面に向って約10分



(山門)



大寶山 西明寺

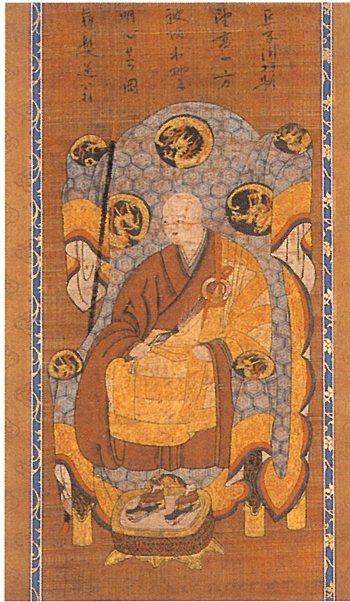
〒442-0857 愛知県豊川市八幡町寺前7番地
 TEL 0533-87-2251
 FAX 0533-88-3731
 HP <http://www.15.ocn.ne.jp/~saimyoji/>

1. 開山の由来

遠い平安の昔、一条天皇の御世に三河の国司大江定基が、愛妾力寿姫に死別して世の無常を感じ、仏門を志して名を寂照と改め、長徳年間(995-998)大寶山の東の丘に草庵を結び六光寺と名付け、天台宗の寺院としたのが当山の始めであると伝えられている。

その後、鎌倉時代文応元年(1260)、に執権北条時頼が出家して諸国巡歴の際、大寶山の霊地に錫杖をとどめ、荒廃した六光寺を再興して臨済宗最明寺と改め、寺に仏牙舍利を奉納するとともに、境内に護身仏である不動明王の尊像を安置されたと伝えられる。

それ以来、星霜200余年、世の変遷につれて、寺運は衰退の一途をたどるようになったが、室町時代の延徳元年(1489)駿河の刺史水野公が当地を領するにあたって、最明寺の法燈を再び輝かさんと志し、知多郡緒川村の乾坤院より太素省淳和尚を迎えて最明寺中興の開山とした。省淳和尚は、最明寺を曹洞宗に改めて乾坤院の末寺とし、宗門の布教につとめ寺の再興をなしとげられた。



(御開山太素省淳大和尚)

2. 寺史と史跡

● 朱印状

室町時代末の永禄7年(1564)、大寶山の西麓、鷲坂の地において徳川勢と今川勢の合戦のとき、最明寺四世快翁龍喜和尚は、弟子らに命じて粥を炊き、徳川の陣営におくり兵をねぎらった。

勝利をおさめた家康は、その夜、最明寺に入り本尊阿弥陀如来の尊像に武運を祈願した。このことを徳として家康は慶長8年(1603)、六世伝芝全受和尚を伏見城に招いて寺領20石の御朱印状を渡すとともに「西」の一字を与え、最明寺を西明寺と改めたと伝えられる。

● 岡崎城主水野公との親交

寛文9年(1669)、十世陌州牛薫和尚の時、不慮の火難に遭い本堂その他を焼失した。再建にあたって住職と親交のあった岡崎城主水野監物忠善および当地の代官、鈴木八右衛門の御助力を得て、寛文11年(1671)3月、上棟入仏法要が盛大に厳修された。

水野公との親交は、水野公の菩提寺である乾坤院から太素省淳和尚を迎えて以来のことであり、特に水野監物忠善と陌州牛薫和尚の親交は厚く、金子目録を添えた火事見舞状、手作りのたばこの礼状など40数通が保管されている。

● 諸氏の墓碑

境内東の山麓に3基の五輪塔があり、六光寺跡と伝えられる。また、大江定基・北条時頼・水野公の墓碑が当山三開基の墓として現在も祀られている。

このほか、武田信玄の軍師山本勘助晴幸の墓がある。勘助は牛久保の出身といわれ武田信玄に仕官して、自己の軍略を駆使し、各地の戦いで武功をたて、永禄4年(1561)9月10日、川中嶋合戦において討死した。

墓は、草壁村(豊川市豊津町)の、勘助の兄の子孫が追善供養のため建てたと伝えられている。

また、芭蕉の句碑を建てた郷土の俳人米林下才二の墓が西明寺幼稚園裏の墓地の入口にまつられてある。



最明寺殿真巖道崇大居士・勅特賜圓通大師六光寺殿寂照法師・長壽院殿乾徳慧剛大居士
(北条時頼・大江定基・水野公の墓碑)



(本堂) 平成8年(1996年)10月落慶

3. 本尊と諸仏

● 本尊

定印の阿弥陀如来坐像で、仏師安阿弥の作といわれている。昭和47年11月、文化財として市の指定を受けた。

阿弥陀如来は無量寿如来、無量光如来ともいわれ現在も西方浄土に住し48の本願によって大悲による永遠の救いをするという。

特に往生願では、念仏を行うものを必ず往生せしむることを約したまうので、あらゆる人々の信仰を集める慈悲深い仏さまである。



(本尊阿弥陀如来像)

● 愛染明王

この尊像は、大江定基が念持仏として亡き力寿姫の菩提を弔うため、愛染池畔に祀ったと伝えられている。

人間の愛欲貧染をそのままに認めて仏心に通ずることを教えるみほとけで煩惱即菩提の教えの本尊である。

結縁、家内円満、五穀豊穡の靈験著しく善男善女に広く信仰され、毎年4月に愛染講大祭がいとなまれる。又、寺宝愛染明王の画像も祀られている。



(愛染明王)

● 不動明王

この尊像は、北条時頼入道が最明寺を再興した文応年中に大寶山の不動坂に安置した霊像と伝えられている。

不動明王は、如来の使者とも召使ともいわれ、修行者にもかかずいてこれを守護する役を受持ち、忿怒の姿は煩惱を打ちくだいて、怨敵を退散させ邪鬼悪魔から人々を守るといわれる明王で、その靈験まことに顕著であり、世人の信仰をあつめている。

● ベルツ博士の供養塔



(ベルツ博士の供養塔)

本堂の前庭に、日本医学の恩人、ベルツ博士ならびに家族の碑がある。